



日本遺産認定記念フォーラム

歴史をつなぎ 未来を拓く 石の文化

入場無料
(要申し込み)

と き 11月26日(土)13時～17時

ところ サイエンスヒルズこまつ わくわくホール

小松の石文化の魅力を再発見し、石文化を通じた広域での地域連携と地域活性化について考えます。

申し込み

文化創造課 ☎24・8130

I 基調講演

日本遺産の認定の目的や認定に伴う物語化、地域活性化について発表します。

◇「日本遺産認定について」 文化庁 文化財部 記念物課長 大西啓介 氏

◇「文化遺産の物語化と地域活性化」 日本観光振興協会 総合調査研究所長 丁野朗 氏

II 地域報告

各地域での石文化を活かした取り組みを紹介します。

◇小松市「小松の石の文化と地域活性化の取り組み」

◇松江市「来待石の採石・加工・文化・交流」

◇高砂市「石が結ぶ産業～過去から未来へ～」



▲来待石の石切場(松江市)



▲石の宝殿(高砂市)

III パネルディスカッション

石の文化の広域連携と石を活かしたモデル事業などについて語り合います。
テーマ「石の物語が育む地域力～先人達の遺産を活かし未来創造～」

IV 未来宣言

「先人から子供達へ～PASS THE STONE CULTURE OF KOMATSU～」



エクスカーショ

とき 11月27日(日)

市内に点在する石文化を巡るバスツアーを開催します。

【1日コース】

時 間 9時～16時(9時に博物館集合)

行き先 博物館、小松城跡、松雲堂、錦

窯展示館、谷口製土所、滝ヶ原地区、那

谷寺など(昼食：里山食堂)

参加費 1,600円(昼食代込み)

【半日コース】

時 間 9時～12時(9時に博物館集合)

行き先 博物館、谷口製土所、埋蔵文化

財センター、滝ヶ原地区など

参加費 500円

定員 各30人(先着順)

申し込み 文化創造課 ☎24・8130

【華道・茶道】

43歳の頃、夫の郷里である小松市へ転入してからは、ゆかりのない地で草月流華道教室と表千家流茶道教室を開き、華道・茶道の普及に取り組みます。それから2年後となる昭和48年には、草月会石川県第13支部の支部長(平成元年より石川県委員)に就任。平成9年に開庵した茶室「仙叟屋敷ならびに玄庵」の運営においては、現在に至るまで中心的役割を果たすなど、40年以上にわたって石川県内における華道・茶道の普及に尽力されています。「古くから受け継がれてきた道を踏み違えずに、温故知新の心を後進に伝えたい」。やさしい生駒さんの微笑みには深い情愛が込められています。

生駒さんは、19歳の頃に実家がいった鎌倉でいけばな草月流に入門しました。また、華道に専念する傍ら、22歳の頃には茶道表千家にも入門。無我夢中でそれぞれの道を追求していくうちに、日本の文化や伝統芸能の奥深さに心を打たれ「自分も伝統の精神や素晴らしさを継承したい」と考えるようになりました。

温故知新の心を伝えたい



い こ ま え つ こ
生駒悦子 さん(日の出町)
■石川県いけばな文化協会専務理事
表千家同門会石川県支部参与

受賞おめでとうございます。



文化賞

小松市文化賞は、科学をはじめ芸術、産業、経済など広く文化の発展に尽くし、活躍された人にお贈りしています。

問い合わせ

広報秘書課 ☎24・8000

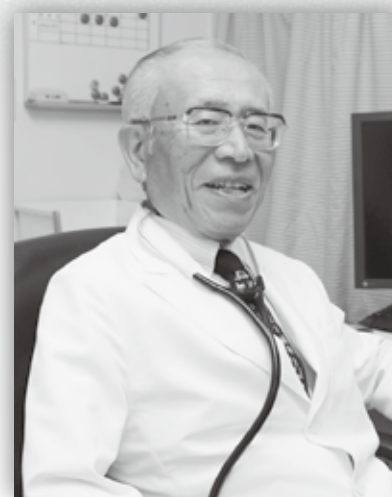
全ては患者と地域のために

見谷さんは、金沢大学医学部大学院を修了後、小松市民病院に勤め、41歳の頃に見谷内科医院を開業しました。「地域医療の充実のためには訪問看護が必要不可欠」との信念に基づき、開業直後から寝たきりの患者宅を往診するなど、世間に先んじて在宅医療を進めてきました。

また、平成5年には小松市内で第1号となる訪問看護ステーションを設立。医師の指示のもと、看護師が自宅に訪問し、看護サービスを提供する仕組みを作るほか、現在は新たに介護支援機能を加え、医療・看護・介護の安心できる地域包括ケアシステムの構築を行っています。

更に、市における健康づくりや国民健康保険事業などの各種委員会の要職を長年にわたり数多く務められ、介護保険事業の運営や救急医療体制の整備などでも多大な貢献をされています。

「誰もが住み慣れた所で最期まで暮らせる医療の確立、それこそが私の願い」と語る見谷さん。常に患者を思いやる熱い情熱にあふれています。



み た に い わ お
見谷 巖 さん(北浅井町)
■医療法人社団見郷会理事長
見谷内科医院院長

【保健・福祉】